

次世代超大型望遠鏡応援団の結成

伊東昌市（天文情報センター）



家さんの解説。

2012年10月29日月曜日には、すばる棟大セミナー室で、全国から集まっていたプラネタリウムや科学館担当者、国立天文台職員など50名を越える皆さんを対象に、次世代超大型望遠鏡応援特別講演会を開催しました。

国際協力による次世代超大型望遠鏡建設への参加が、国民の理解を得るために、まず各地のプラネタリウムや科学館の職員にも応援していただく必要があると考えたからです。

ビッグバンの後には何が起こったのか？　何時頃どのようにして最初の星や銀河が生まれ、宇宙は明るく輝くようになったのか？　銀河中心核に存在すると考えられる巨大質量ブラックホールはどのように形成されるのか？　宇宙の膨張を加速させているダークエネルギーの正体は何か？　ダークマターの分布はどのようにになっているのか？　生命の宿る惑星はどこにあるのか？　日本の天文学研究コミュニティーが次世代超大型望遠鏡

にかける期待は計り知れません。

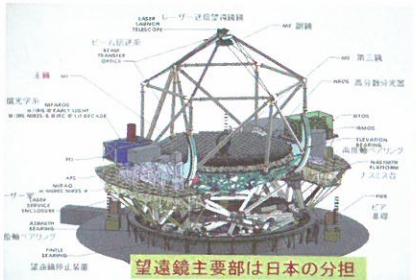
講演ではアメリカ、カナダ、中国、インドなど海外の機関との協力関係／役割分担の調整、財政的・技術的な問題、そして日本の存在感を示す先端的な研究や技術を語っていただきました。サイエンス・フロンティアへの挑戦とそれを達成するための新しい技術への挑戦に日本が大きく関わる話は、まさに胸躍るものでした。参加が正式に決まれば、これまでも技術的評価の高かった望遠鏡本体の製作に加えて主鏡製作やすばる望遠鏡で培った観測装置の製作など、世界に誇るさまざまな役割が待っていることなどが語されました。日本の天文学研究や装置開発が世界の最先端レベルにあることは、必ずしも広く一般に知られているとはいえません。日本が次世代超大型望遠鏡プロジェクトの中心的役割を担うことを強くアピールすることによって、閉塞感が漂う日本人々に明るい希望をもたらすに違いありません。

繰り返しますが、我々が目指す次世代大型望遠鏡建設という新たなプロジェクトを、大勢の人々に知っていただき共感してもらうためには全国の科学コミュニケータ達の協力が是非必要なのです。科学コミュニケータたちは、それぞれの職場や地域で次世代超大型望遠鏡建設の意義を伝えてくれることになります。ですから、今回のように国立天文台がプラネタリウムや科学館職員あるいは教員を対象とするワークショップや講演会を開催することは大きな意味を持つと考えます。

この会が開催されるきっかけは思わぬ



全国から50名以上の応援団が集まった。



望遠鏡主要部は日本の分担

TMTの主要部分は日本の分担に。

ことでした。2012年9月に国立天文台主催で全国の科学館職員や教員を集めた「最新の天文学の普及をめざすワークショップ」—世界最先端を突き進む『すばる望遠鏡』—をヒロのハワイ観測所で開催しました。このときちょうど現地職員にTMT計画の状況説明の講演に来られていたTMT推進室長の家正則教授と遭遇し、今回の特別講演会を開催し次世代超大型望遠鏡応援団を作ろうということになったのです。ハワイでのワークショップ参加者による報告会との合同会となりましたが、WS参加者以外の科学館関係者もたくさん参加してください、家教授からは今年度末までのTMT第一期寄付者の銘板をハワイに掲示するとい

う企画の宣言もあり、思わず盛況な会合となりました。懇親会では、三鷹へ出張中の有本信雄ハワイ観測所長も加わり、天文学の未来を語る楽しい場となりました。ご協力をいただいた関係者のみなさまに深く御礼を申し上げます。

応援団みんなで記念撮影。

